

# 高等学校 保健体育科

## 体育(1年) 単元名:「ハンドボール」(作戦を立て、仲間の動きと自分の動きを把握しよう)

大阪府教育センター附属高等学校 授業者 坂田 透

### I 単元を通して育成をめざす資質・能力

#### 【めざす生徒の学ぶ姿】

自分ができないことを仲間に聞いたり、仲間の動きを見たり、できるポイントを探ったりすることを通じて、自己の技能を向上させる。  
チーム毎に作戦を立て、ゲームで実践を繰り返すことにより、「自分ならこうする」という視点を持ち、お互いにそれを表現できる。

#### 【学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編・体育編との主な関連】

E 球技 [入学年次] ゴール型 [知識及び技能] (1) ア、[思考力、判断力、表現力等] (2)  
(例示より) ・自己観察や他者観察がある ・味方が操作しやすいパスを送る ・自己の考えを伝えること

知識及び技能	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、運動を観察し、作戦に応じた技能でゲームを展開できるようにする。
思考力、判断力、表現力等	攻防などにおいて、自己やチームの課題を発見し、解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ハンドボールに自主的に取り組み、フェアな態度を大切に、作戦などについての話し合いに貢献する。互いに教え合い、健康・安全を確保できるようにする。

### II 単元計画(資質・能力育成のプロセス) 全10時間

時	めざす生徒の姿	学習活動・学習内容	教師の支援・指導 (★深い学びを生み出す工夫)
1・2 (第1次)	ハンドボールのルールや技能について知る	<b>○動画を見て、ルールや技能を理解する活動</b> ・動画でハンドボールのルールや必要な技能を確認しながら、自分と仲間とパスをし合う。 ・うまく投げられるペア、そうでないペアとの比較をすることで、自己の技能を向上する。 ・自分に足りないもの、仲間に足りないものを把握していく学習を通じて、お互いに気付きを共有する。	○動画でハンドボールのゲーム等について提示する。 ★ <u>動画から読み取れることを具体的に挙げる活動</u> ★ <u>ペアで活動させ、お互いに良いところ、改善が必要なお互い伝え合わせる活動</u>
3・4 (第2次)	シュート技能を向上させ、ゲームにつなげることができる	<b>○ハンドボールのシュートには、3種類あることの説明を受け、チームで実際にやってみる活動</b> ・仲間とともに、3種類のシュートの違いをはっきりと持つことで、どの場面でどんなシュートが有効になるかをチームで考え、ゲームへの見直しを持つ。 ・シュートについて感じたことや、気付いたことをワークシートに書いて、仲間に伝えたりして表現する。	○作戦計画用のワークシートを用意し、チームで共有→実践→チームで改善→全体で共有という流れを作る。 ★「このチームで足りない部分はどこだろう」「このチームがうまくいくのはなぜだろう」という声かけ ★3対2、3対3をチームで実践させ、攻撃だけでなく、守備に必要な知識・技能を確認

ポイント①

5・6 (第3次)	攻撃だけでなく、守備の重要性に気づき、スペースを利用したゲームにつなげる	<b>【課題】自分たちに取り入れられる作戦を見つけ、取り込めるものがあるかチームで考え、取り込もう。</b> ・チームで、シュートまでつなげていくためには、どうパスをしていくか、どういう動きが有効なのかを共有し、ワークシートに記入する。 ・他のチームの作戦を全体に共有することで、「そんな作戦もあったんだ」「この作戦ならチームに取り入れられる」という気づきをチームで共有する。 <b>○シュートへつなげるための作戦を立てる活動</b> ・チームでワークシートへ作戦を記入していく ・チームで実践してみることで、その作戦が有効だったか、改善が必要かを考える	○簡易ゲームの実施とともに、作戦立案の時間を設ける。 ★「なぜ、こんなにも点数が入るのだろうか」「点数が入るということは何が良かったのか」「点数が入らなかった原因は何だろう、改善点は見つかるか」 *事例) 生徒「守備が甘い」→先生「どう甘い?」→生徒「すぐ抜けられる。守備をどうすればいいか考えたい」「スペースのとり方大事」「ボールにすぐにみんな集まっているから、空いたスペースできて、そこに走りこんだ人にパスが回ってシュートされる」 ○簡易ゲームの様子を動画に撮り、全体で見て共有する。 ★「ボールを持っていない時にはどう動けばいい?」「自分だけが動けばいいのか?」 *事例) 生徒「仲間に指示を出す」「どうすればいいか聞く」
	7・10 (第4次)	仲間の思いや自分の思いをつなげ、作戦を立てたり、他のチームと共有できる	<b>○学んだ知識・技能を自分の価値観と結び付け、より良い作戦を組み立て、ゲームに活かす活動</b> ・自分のチームに、自身が考えた作戦が少しでも活かせるように、仲間と話し合ったり、ワークシートに記入したりしていく。 ・他のチームがどのような作戦を立てているのかを全体共有し、自身のチームに取り入れることができないかを考えて、実践する。 ・うまくいった作戦には、どんな理由でうまくいったのかを考え、もっとうまくいくためにはどうすればいいか考える。 ・うまくいかなかった作戦には、どんな課題があるのか、どうやったら課題解決するかを考え、ゲームで実践する。

ポイント②

### III 深い学びを実現するための指導の工夫

- ◆見直しをもたせる学習活動(第1次)
  - ・1時間目に、ハンドボールのゲームを見せることで、最終的なゲームに向けての見直しや、何がゲームに必要なのかという課題を設定し、「自分ならこんなことができるな」「ここまでならできそうだ」という見直しを持たせる。「仲間の動きを見ながら、自分たちならどうするか」という目標を共有し、「自分事」として取り組めるように見直しをもたせる。自分なりにまずはボールに慣れることから活動させる。
- ◆気付きを促し、自身の知識・技能をよりよく獲得できるようにする学習活動(第2~3次)
  - ・パスする相手はどういう技能を持っているのかを体感し、お互いにできている部分、課題がある部分を共有する。どうすればいいかを相手と考え伝え合う活動を通じて、知識・技能の獲得へつなげる。数的優位のミニゲームの中で、多くの得点をするができることにより、点数が入る喜びや楽しさを共有する。同時に、「なぜこんなにも点数が入るのだろうか」「点数を入れられないためにはどうすればいいか」を考えさせる。自然と攻撃・守備という側面から考えることができ、それが最終的なゲームに必要な知識・技能へと変化していく。単元の目標に大きく迫る時間である。
- ◆仲間の意見を積極的に取り入れ、自分の考えと結び付ける学習活動(第4次)
  - ・ゲームを通じて、できるだけ多くの作戦を全体で共有できるようにする。自身のチームを仲間のチームとを比較することで、知識・技能を習得・活用しながら、「自分ならこうしていきたいな」という思いを作戦に反映することを目標とする。うまくいくためにはどんなことが必要なのか、また、うまくいかなかったのはどんな理由かを考えたり調べたりすることで、解決に向けて実践できるようにする。

## IV 生徒はどのような学びを実現したか

### ○自分の動きや仲間の動きを考えると、“自分ならこうする”と考えを表現する

本実践では、“自分ならこうする”という考えをもち、【自分事】として取り組むことができることを目的とした。

自分の動きに対する相手の動きを考えたり、どう練習していけば技能が上達するかを考えたりする活動を通して、実際にゲームに必要なシュートやスペースを活用したパス等の知識・技能がどう活用されるかを実感できるようにした。自分に足りないもの、仲間に足りないもの、チームに足りないものを常に考え、課題解決に向けての練習方法を考え、実践させた。

これまでの授業では、自分の考えは表に出す生徒は少なく、技能が高い生徒の指示のみが表に出ていくような授業になり、どう動けばいいのかが分からない、どうパスすればいいかわからないという声が生徒から挙がっていた。しかし、本実践を通して、個人だけでなくチームとして作戦を立てたり、ゲームで勝つためにはどうしていく必要があるかということを考えたりすることができるようになった。第1次から、単元に必要な知識・技能を自分なりに練習することで、単元の終わりには、シュートのポイントを教え合う場面や、作戦を立てる時に自分の意見をチーム内で共有するなど、知識・技能の活用を見出すことができるようになった。

ポイント①

### 第2次

#### ☆自己やチームの課題発見や、ゲーム展開に必要な知識・技能に自ら気付く

【ふりかえりの記述】 Q.ハンドボールの授業を受けて身に付いたこと

#### ハンドボールの授業を受けて身についたこと

位置取りが少し体上達したかと思うので、バスケなどの球技でも適用すると思う。前回の対戦が完璧な状態や試合することができたこと、勝つことでチームの雰囲気も良くなり戦いやすくなることを学んだ。でも、チームのメンバーからパスを受ける時、うまくボールを掴めなかったりすることが多かった。また、その反動でボールに対する動きに敏感になった。「チームのためなら」と思うと、自然と動くことができた。

数人の生徒ではあるが、授業内でやっていることが、他の単元やクラブ活動等に活かされることが、この記述から分かる。

- ・周りを見ること ・パスやシュートをする時の正確性 ・声を出したらもっとパスがつながるようになったこと ・仲間がいることの大切さ
- ・しんどい時に頑張れば勝てる ・近い人にパスをする ・シュートを打つ時はフリーになって打つ
- ・パスをもらう時は自分からフリーになってパスをもらう 等

初めてハンドボールを実践する生徒が、「サッカーやバスケにも応用できる」「フットサルと動きが似ている」という気付きをふりかえりシートに記述している。守備の人数が攻撃よりも少ない状況でのゲームを通して、得点しやすく、攻撃に対する作戦をうまく立てることができるようになった。

【教師の発問】

このチームで足りない部分はどこだろう？  
このチームがうまくいくのはなぜだろう？

位置取りがうまい

パスキャッチがうまくいっている

【生徒の反応】

ボールがあるところに集まっている

\*ハンドボールには、どんな知識・技能が必要になるのかに気付くことができる発問や声かけが有効に働いた。

#### 【授業者はココを見る！】

チームと自分に必要な知識・技能の獲得をめざしているか？課題を発見し、それに取り組もうとしているか？

- 個人で足りない技能やチームに足りない技能、逆にチームの強み等を分析し、記述しているか<ふりかえりシート>
- 数的優位のゲームをしていく中で、自分の役割を見出し、動くことができていくか<観察>

ポイント②

### 第3次～第4次

#### ☆簡易ゲームを通じて、ルールを決める

数的優位のゲームを通して、シュートが決まるためにはどうすればいいかをチームで考えることができるようになった。多くの得点を、各チームがたたき出すことができるようになった。

【教師の発問】

なぜ、こんなにも点数が入るのだろうか  
点数が入るということは何が良かったのか  
点数が入らなかった原因は何だろう

【生徒の反応】

すぐ抜かれる。守備をどうすればいいか考えたい

スペースのとり方が大事

パスが大きいのがいい

\*ゲームに必要な知識・技能として、一定のルール(センターラインを越えるロングパス禁止、ドリブル禁止等)を決めたことが有効に働いた。

【ふりかえりの記述】 Q.ハンドボールの授業を通しての感想

#### ハンドボールの授業をととしての感想

明らかに練習することによって上達していると自分で実感できたことが嬉しかった。以外とパスが効いたと思いきや、受け取りやすいボールを投げたり、結構強かな勢いのボールを投げたりしてくれたので、生半可なキャッチボールになりずいぶん自分も全力で向き合うことができた。今までは個人でチームメンバーとのコミュニケーションが重要だと思いきや、実際に「パス」とか「次！次！」などの声掛けをすることにより自然と勢いが増してくるということも知った。攻守の形を考えたから試合をしたことがなかったのも、今回の授業が効率的で学びやすい授業だと思いました。

攻撃の仕方に特化して作戦を立てさせるような授業を組み立てることによって、守備のやり方にも徐々に気付くようになっていくことが分かる。

「始めはシュートやブロックをするのは難しかったけど、やっていく毎にだんだんできるようになった」「攻めと守備がうまくいってきた」「ルールが似ているとすごく楽しかった」「関心が湧きました」「インターネットで動画を見ようと思いました」 等

ルールを制限することで、パス回しが盛んになり、パスやパスキャッチの重要性を今まで以上に感じることができるようになっている様子が見えてきた。また、ボールに集まることも少なくなり、スペースを見つけて、そのスペースをどう使うかをチームの作戦タイム時に考えるチームが増えた。攻撃でも守備でも、“自分ならこうする”という視点を持ち、作戦タイムに臨むことができようになった。

#### 【授業者はココを見る！】

今までの授業の中で学んだ知識・技能の活用ができていくか？チームの課題を発見し、解決のために取り組もうとしているか？

- チームの作戦シートに、協力して作戦を立てているか<観察・ワークシート>
- うまくいった作戦、うまくいかなかった作戦の共有、分析ができていくか<チーム内での話し合い・班ごとの交流>

## V 実践を終えて

### 授業者より

#### ■意図したこと 共有・課題を持って実践すること

「こういうシュートがあるんだ」という生徒の振り返りがあったように、ただ投げるのがシュートではなく、3つのシュートを知識・技能として教えることで、生徒たちが自分自身で挑戦する姿が多く見られた。また、これらがゲームにどう結び付くかを生徒たちなりに理解し、実践できることをめざして、言葉で伝えるだけではなく自分たちで考え、それをワークシートに書かせて、自分たちの考えをもう一度まとめ直したり、新たな作戦を立てたりすることにつながるようにした。

#### ■実践して良かったこと

攻撃を数的優位の状態で作戦や実践をさせることで、生徒たちもシュートし、ゴールすることの楽しさを体験できていた。また、攻撃だけでなく、なぜ点数が入りやすいのかを考えた結果、守備に対して意識を持つ生徒も見受けられた。相手の動きを見て、“自分がこうしないといけない”という意識が湧いていた。「ハンドボール以外の種目にも共通している点が多い」という生徒の声もあった。ゴール型の種目で、本実践で学んだことを活かして欲しいと考える。またゲーム中には、自分の技能に合った「自分の役割を見付ける」ことにもつながった。

#### ■同じ単元をもう一度するのであれば

シュートやパス、ゲームに必要な知識・技能を伝えた上で、守備のことをメインに単元計画を立案していきたい。本実践では、主として攻撃を考えた上で守備を考えるものであったが、守備からしっかり考えさせていくことで、より発展的な攻撃を考えることにつながるのではないかと考える。ICT 機器を用い、試合分析をさせ、チームに合ったより効率的な作戦を立案し、実践できるようにしていきたい。